

大本と丹波亀山城址

亀山城址は、往時の石垣を復元して、春は白梅、ヤマザクラ、秋は紅葉と四季折々、美しい景色あやなす自然豊かな大本の聖地・天恩郷として、よみがえりました

明智光秀公ゆかりの地
丹波亀山城址
大本参拝記念

名城・亀山城図
台湾クスノキ自然木に油絵で描かれた亀山城。大本教祖・出口王仁三郎師は在りし日の名城・亀山城を懐かしみ、画友であった井内鐵外面伯に依頼、同図が大正14年7月22日、大本に納められた

宗教法人 大本



大本公式チャンネル



石垣建設前の亀山城址（昭和6年頃）。内堀跡は湿田として使われていた（現駐車場）。写真中央の大イチョウ手前には、亀山城の杉櫓に似せた建物を建設したが、昭和10年の大本事件で政府に破壊された

丹波亀山城は、天正五年（一五七七）頃、織田信長公の命を受けた明智光秀公が、丹波攻略の拠点として築城した。本能寺の変後、豊臣政権下では、その重要性から城内や城下町の整備がなされ、次いで江戸時代に入り、幕府が西国大名に命じ、天下普請により近世城郭として大修築がなされた。

しかし、三百年余り続いた丹波亀山城も明治初頭の廃城令を受け、天守はもとより、全てが払い下げられ、多くの遺構や石垣までもが切り売りされ、各地へと散っていった。

残された城址は荒れ果て、狐狸の巣くう丘陵台地となり、「何が出るやら怖くて」と、町の人々は近寄ることさえしなかった。

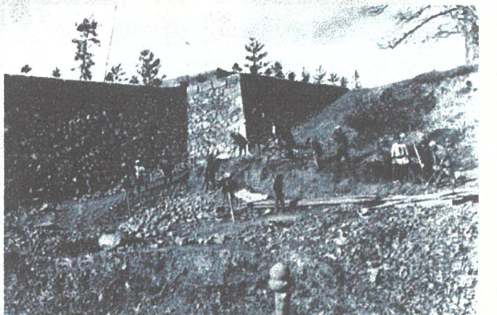
大正八年（一九一九）、亀岡出身の宗教法人「大本」の教祖・出口王仁三郎師は、荒れゆく亀山城の様に憤慨し、待てしばし昔の城にかへさんと雄たけびしたる若き日の吾と歌に残した通り、亀山城址を買い取った。

王仁三郎師は、大本信徒を動員して、残った石を土中から掘り起こし、元の亀山城石垣を復元した。そして、自然あふれる大本の聖地「天恩郷」として亀山城址をよみがえらせた。

城址は今、平和な世界と、人類の幸福を祈る場となっている。



現在の万祥殿前庭・南東部分の石積みをする大本信徒。石垣は壊され大半が土中に埋まっていた。石には天下普請の証しとしての諸大名の刻印が散見される



天守台の石垣復元後、城の象徴である大イチョウ周辺の石垣を建設。写真右上には大イチョウが見える（昭和3年頃）

- 天正 三年（一五七五）明智光秀 丹波攻略開始
- 天正 五年（一五七七）明智光秀 近藤秀政の荒塚山居館を利用し亀山城築城
- 天正 七年（一五七九）明智光秀 丹波平定
- 天正 十年（一五八二）本能寺の変 山崎の合戦（以降豊臣家の支配下）
- 天正 十一年（一五八三）羽柴秀勝（信長四男） 豊臣秀勝（妻お江、関白秀次の弟） 豊臣秀俊（後の小早川秀秋） 城主となる
- 天正 十九年（一五九二）本丸二ノ丸三ノ丸整備
- 文禄 四年（一五九五）前田玄以（五奉行）が丹波亀山城を領す
- 慶長 五年（一六〇〇）関ヶ原の戦い（以降徳川家の支配下）
- 慶長 七年（一六〇二）丹波亀山城は天領となる
- 城代官 北条氏勝 城下町南限惣堀完成
- 慶長 十一年（一六〇六）城代官 権田小三郎 城内の内堀完成
- 慶長 十四年（一六〇九）徳川譜代家臣の岡部長盛が丹波亀山城を領す
- 慶長 十五年（一六一〇）西国大名を動員（天下普請）して亀山城整備
- 藤堂高虎が縄張りし、今治城の天守を移築
- 元和 七年（一六二二）その後の城主 松平（大給）二代 菅沼家二代 松平（藤井）家三代 久世家 井上家 青山家三代 松平（形原）家八代と継がれる
- 明治 二年（一八六九）版籍奉還により亀山藩を亀岡藩と改称
- 明治 六年（一八七三）亀山城の廃城が決まる
- 明治 十年（一八七七）京都商人・森川喜兵衛が払い下げを受け天守閣を取り壊し
- 明治 十一年（一八七八）亀山城御殿表門が売却される
- 明治 十三年（一八八〇）亀山城石垣を売却
- 明治 二十二年（一八九五）上村新兵衛（北町）が亀山城址を登記
- 明治 三十六年（一九〇三）田中源太郎（北町）田中数之助（安町）亀山城址入手
- 大正 八年（一九一九）出口王仁三郎 本丸・二ノ丸址の二五〇〇坪入手
- 大正 九年（一九二〇）整地のため開拓に着手 石垣の修復と整備を開始
- 大正 十五年（一九二六）山崎忠次（横町）より亀山城址東側二〇〇〇坪入手
- 昭和 五年（一九三〇）黒川儀兵衛（安町）より亀山城址中の島一〇〇〇坪入手
- 昭和 十年（一九三五）第二次大本事件勃発（大本は政府の弾圧を受ける）
- 昭和 十一年（一九三六）政府は全ての建築物また城跡石垣を破壊
- 昭和 十七年（一九四二）治安維持法違反無罪判決
- 昭和 二十年（一九四五）大審院判決・不敬罪解消
- 昭和 二十一年（一九四六）破壊された亀山城址・石垣の再修復と整備を開始



出口 王仁三郎
(でぐち おにさぶろう)
(1871-1948)

明治4年(1871)京都府亀岡市曾我部町穴太に上田家の長男として生まれる。江戸中期の円山派絵師、円山応挙(旧:上田主水、1733-1795)の直系、子孫。

明治32年(1899)大本開祖・出口なお(教祖)に招かれ、「大本」入りし、出口なおとともに、大本教祖となる。

宗教家・思想家であると同時に芸術家としても知られ、書・陶芸・短歌などの芸術作品は、数万点にのぼる。



ギャラリーおほもと
(みろく会館2階)



あらしやま

「耀盤(ようわん)」

【会場】

大本みろく会館2階
「ギャラリーおほもと」(大本本部内)

【入館】

午前9時30分〜午後4時30分
(閉館:午後5時)



1 神殿・万祥殿



2 ご祈願は参拝者受付(正面向かって右側)にて承ります(交通安全・合格・良縁・健康・就職成就・商売繁栄・安産祈願等/初宮詣・七五三)



3 二つ目の門が亀山城当時の本丸入口に当たる



4 江戸時代(17世紀)以前からあった井戸跡とされる石組み



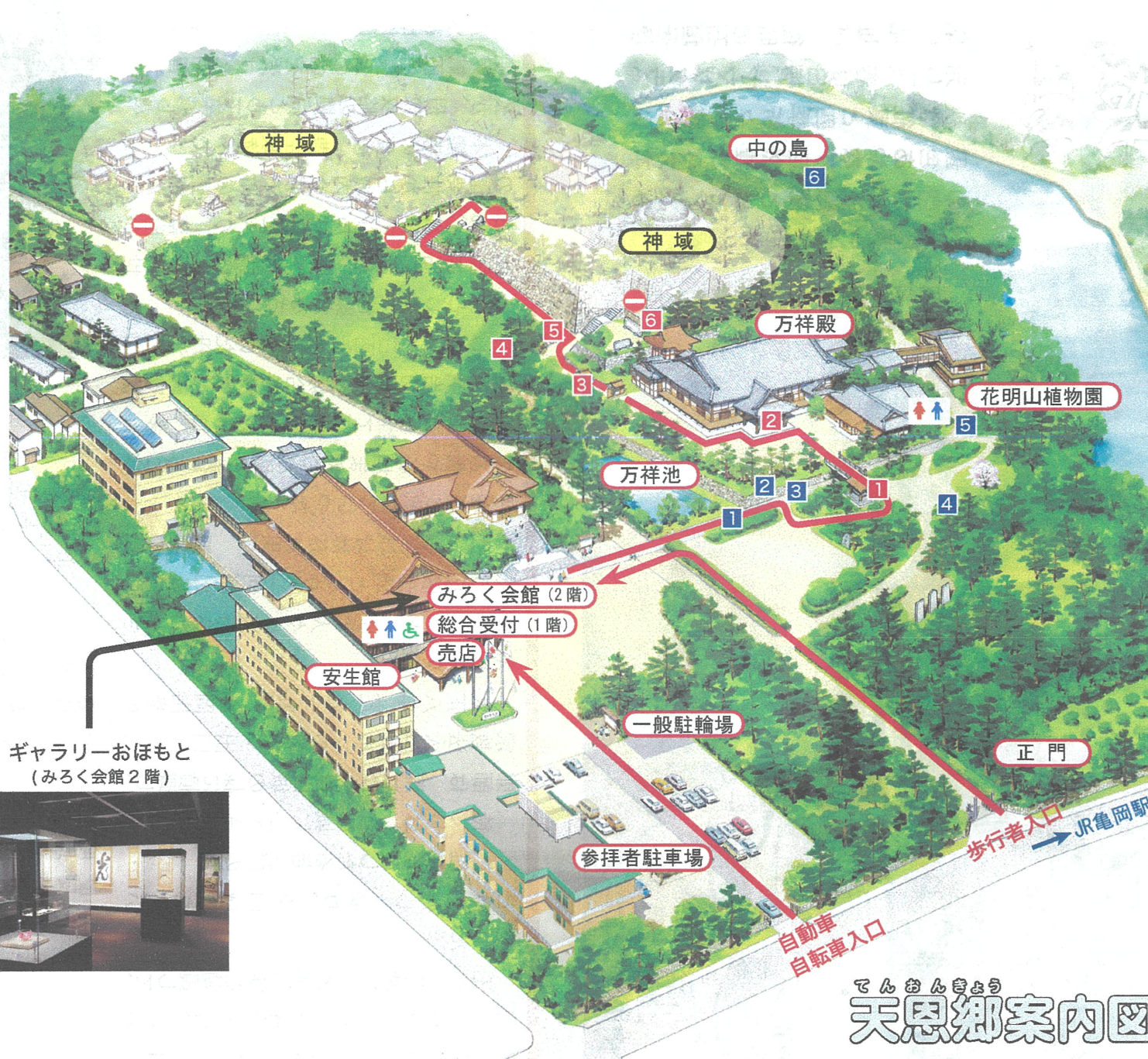
5 復元された天守石垣。下から約3分の1は、光秀公築城当時の穴太積みが奇跡的に残っている



6 石碑上にそびえる大イチョウ。光秀公の手植えと伝えられるが、江戸中期に台風で倒れ、後継ぎに若木を植えたとの記録が残る

丹波亀山城本丸跡石垣の散策

1
6



てんおんきょう
天恩郷案内図

七草粥



1月7日 1年間の無病息災を祈り、亀岡市内で採取した春の七草を刻み入れた七草粥の接待を行っています。(令和3年は中止)

観桜茶会



4月 第2日曜日 このはなざくら観桜茶会。苑内に薄茶席を設け、能楽・楽等の奉納などを行っています。

光秀公慰霊祭



5月3日 明智日向守光秀公慰霊祭。亀岡光秀まつりに併せて執行。武者行列の一行も参拝し、明智光秀公をお偲びします。

秋をめでの夕べ



旧暦8月15日(十五夜)秋の七草と共に眺める中秋の名月は格別。苑内にはあんどんがともされ、薄茶や能楽が楽しめます。

お願い

- ①天恩郷の参観・見学はみろく会館1階・総合受付へ申し出てください。苑内にはいろいろな種類の樹木・草花が植えてあります。枝を折るなどして、決して傷つけないでください。また、喫煙所以外での喫煙、苑内での飲食はご遠慮ください。
- ②神域ならびに建物内の写真撮影、また、撮影したものを許可なくインターネット上にアップすることはご遠慮ください。

天下普請刻印と天恩郷の風情散策

1
6



1 復元された亀山城石垣。池(左)はかつての内堀跡



2 大名たちが残した天下普請の刻印を見ることができる



3 石垣はかつての亀山城石垣跡に沿って積み直されている



4 亀山城二の丸跡の土塁造りの台地。松林とヤマザクラ



5 花明山植物園は昭和26(1951)年に開園。日本の野生植物を主に約1,000種が植えられている。万葉集に詠まれた植物も多く、万葉植物園とも呼ばれている(入場無料・入口で要受付)



6 亀山城の名残をとどめる堀と中の島。中の島にはかつて江戸時代に弾薬が納められていた。現在は自然豊かな里山の風情を味わうことができる



コノハナザクラ

昭和28(1953)年4月14日、出口直日大本三代教主が花明山植物園で発見したヤマザクラの新変種。和名は三代教主の希望で古事記に登場する木花咲耶姫命(このはなさくやひめのみこと)にちなみ付けられた。花は八重咲き、花弁60枚前後、雌しべは1〜3本あるが、花によって多少異なる。平成6(1994)年に三重県で同じものが発見されるまで、世界で亀岡だけに存在する珍種であった。花の華麗さと気高さは、広く市民に愛されている。



カキツバタ

万祥池のカキツバタの元株は、愛知県刈谷市小堤西池に育つもので、日本のカキツバタの野生種であり、国の天然記念物に指定されている。一般に広く見られるカキツバタは、江戸時代に品種改良された園芸種が主で、野生種は大変希少価値が高い。日本の在来植物を保護しようとする大本の姿勢を受け、研究用の野生種500株が特別に提供された。花の色はコグイムラサキといわれ、5月上旬が見頃。